

《就任挨拶》

評議員に就任して



小間 篤 (化学専攻)

koma@chem.s.u-tokyo.ac.jp

安楽先生の後任として、このたび評議員に選出されました。これまで会計委員会、人事委員会等において理学系研究科内での役割分担を果たしてきましたが、これからはまた違った立場で研究科のお役に立てるよう微力を尽くす所存です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

評議員として将来計画委員会のとりまとめを仰せつかりましたが、柏新研究科構想に対する理学系研究科内の意見を集約することが緊急の課題であると認識しております。ご承知のように、東京大学としては、平成10年度概算要求に間に合わすべく、この9月にいわゆるプロデューサー制を導入して、柏新研究科の最終案を非常に早いピッチでまとめることを決定しており、理学系研究科としても計画を早急に煮詰める必要があるからです。

度重なる定員削減により研究科の予算定員がきわめて厳しい状況になっている中で、新研究科に定員を割くことは、比較的小教室が多い理学系研究科にとっては特につらいことであり、いきおい新キャンパスへの協力は最小限にしたいという気持になりがちですが、以下の理由により、もっと積極的に取り組むべきだと考えます。その第1は、再開発を進めるにしても本郷キャンパスだけでは手狭になるのは時間の問題であり、本郷以外のキャンパスに発展できる道を開いておくことが、研究科の将来にとってきわめて重要だと考えるからです。また理学系研究科から具体的な計画を出さなければ、大学全体として新研究科に出す定員の各部局負担分が一定の割合で理学系研究科に来るのは確実で、結局は定員を削らざるを得ないこととなります。どちらにしても定員を割かな

ければならないのであれば、理学系の将来にプラスになる形で新研究科に協力する方がよいと考えます。

柏新研究科が理学系にとっても意義あるものにするには、本郷キャンパスでは実現しにくい計画を実現し、研究・教育面において、本郷のそれとは相補的なものになるようにすること、また新研究科実現の後も良い意味で理学系研究科とのつながりを維持することの2点が必要条件になろうかと思ひます。前者について言えば、理学院構想の中の「広域理学」の部分がまさにこれに当てはまります。「広域理学」は、従来の専攻の枠組みを越えてプロジェクト的研究を推進することを目指したものであり、新研究科においてもプロジェクト性の高い研究を推進できる体制の確立を目指すべきであると思ひます。現在理学系内のワーキンググループでは、研究テーマを絞った「先端生命科学」への参加、高輝度放射光源あるいはプラズマ実験装置等、新設大型装置を用いた研究への参加、あるいは予測理学、複雑系科学など横断的研究テーマの下での参加等が議論されていますが、プロジェクト性を目指した議論の方向は大変適切だと思ひます。

理学系研究科とのつながりの維持という点に関しては、理学系が参加する部分がある程度まとまった形で参加できる計画にすることが肝要と思ひます。「先端生命科学」の部分についてはよくまとまっているので、それ以外の計画を1つにまとめることが今後の課題になろうかと思ひます。母体研究科とのつながりを維持することは、比較的少人数でスタートしなければならない新研究科にとっても、学部教育への参加、母体研究科との兼担等の点で、不可欠のことと考えます。

以上、評議員に就任に際して、柏新研究科構想に関する考えを述べさせていただきました。同構想をどのように実現させるかは理学系研究科の将来にとってもきわめて重要な問題であり、皆様の忌憚のないご意見を将来計画委員会、あるいは直接私あてにお寄せいただきますようお願い申し上げます。